

## 令和六年度 岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、卒業生、修了生の皆さんをお迎えして、令和六年度学位記等授与式を執り行うことができますことは、皆さんだけでなく、ご家族や関係者の皆様、そして私たち教職員にとっても、誠に嬉しく喜ばしいかぎりです。

皆さんは、本学に入学前からそして入学してからのしばらくの時間を、ウィズ・コロナのもとで過ごしてこられました。日々の生活に加え、受験勉強、授業、部活動、アルバイト、研究などにおいて、様々な制限を受け続けて来られたことと思います。皆さんは本当によく耐えて、困難を乗り越えられ、無事に今日のこの日を迎えられました。皆さんのこれまでのご苦勞に敬意を表するとともに、皆さんのご家族とともに、今年度の学位記等授与式を挙行できることを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、ご家族や関係者の皆様に、岡山大学を代表し、万感の思いを込めて、ご卒業ご修了のお祝いを申し上げたいと思います。本日は、誠にありがとうございます。

私は一昨年4月の学長就任に際し「不易流行の大学経営」を提唱いたしました。「不易流行」は今日のキーワードです。この二年間、学内外でずっ

と言いつけてきたことであり、皆さんもどこかで目にしたり、耳にしたのではないかと思います。ぜひ記憶として留めておいて下さい。「不易流行」は、松尾芭蕉の俳諧の理念であり、時代が変わろうとも不変なもの・変えてはいけないものを「不易」と言います。また、時代の変化、社会の要求や期待に応える形で変化させていかねばならぬものを「流行」と言います。改めて皆さん自身にとっての不易流行とはなにか、ぜひ、卒業後も折に触れて自分事（ごと）として考えていただきたいと思います。

私は大学経営における不易流行の「不易」は、岡山大学に関わる過去・現在・未来の人々（マルチステークホルダー）の持続的で多様な幸せ（well-being）の実現を追求することと定義しました。そして、「不易流行」の「流行」は、国内外の社会情勢を見極め、国の施策や地域の思いを先取りし、形として先導する組織経営改革・人材育成・研究開発などを行うことと定義しました。

私が学長として経営の根幹に据えている「不易」の部分において、学生の皆さんは最も大切なステークホルダーであり、岡山大学が一体となり「誇りと希望」を醸成する中心的な存在です。そのことは卒業後も変わりません。そして、本日参加のご家族の皆様も岡山大学にとっては大切なス

テークホルダーであります。卒業後も同窓生として様々な形で皆さんと関わってまいりたいと考えています。

卒業生、修了生の皆さん自身がヒトとして生きる際に根幹的に据えるべき「不易」として求めていただきたい姿勢は、自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、いわゆる「利他の心」をもって自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとすることです。言い換えれば皆さん一人一人が主役（主体）なのです。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、皆さん一人一人の生活のみならず人類社会に大きな影響を及ぼし、不確実性に満ち溢れ予測不可能な未来を自分事（ごと）として改めて考え直す機会となりました。地球温暖化に対する脱炭素社会の実現、デジタルの力により誰一人取り残されない社会の実現も間近に迫った他人事（ごと）ではない課題です。

私は、44 年前の 1981 年、昭和 56 年に岡山大学を卒業しました。いま振り返れば本当にあっという間の 44 年間でありましたが、在学中に得たよき友、よき師との様々な交わりは私自身の人間としての成長や仕事のキャリアなどに大きな影響を与えた何者にも代えがたいものであり、岡山大

学で学ぶことができたことを人生の誇りに思っています。これこそが「岡大愛 (LOVE)」です。卒業生、修了生の皆さんにも「岡大愛 (LOVE)」を持っていただきたいと心から願っております。重要なステークホルダーである卒業生、修了生の皆さんの「岡大愛 (LOVE)」が色あせることなく、卒業後も醸成していただけるよう岡山大学は様々な形で皆さんと関わってまいります。

私は卒業から今日まで様々な経験をしました。多くの楽しみや喜びを経験しましたが、自分の力が及ばぬ挫折、どうしようもない絶望感、出口の見えない袋小路、後ろがない絶体絶命の崖っぷちの状況、まんじりともせず迎える朝などを経験することがありました。

コロナ禍において皆さんは、過去の卒業生、修了生とは比べ物にならないくらい多くの困難に遭遇したことと思います。しかし、それをどのようにして克服して今日の日を迎えたかを、色褪せることなく記憶にとどめ思い出してみてください。デール・カーネギーは「悩み」ということについて様々な示唆に富んだことを教えてくれています。私自身、困難に遭遇した時に救われ心が軽くなった言葉があります。「一年前に思い悩んでいた事柄を思い出してください、そして一年後その悩みはどうなったか考えて

みてください。2年前、3年前、4年前の悩みについてはどうでしたか？覚えていますか？」皆さんも振り返ってみてください。多くの悩みは「何とか」なっています。

しかし、「何とか」ならず、大きな壁として行く手を阻む悩みや困難もあります。そんなことは一度や二度ではありませんでしたが、私を勇気付けてくれた言葉があり、それを紹介することで皆さんへの餞（はなむけ）の言葉といたします。それは『孟子』の言葉です。

「天のまさに大任をこの人に降（くだ）さんとするや、必ずまずその心志（しんし）を苦しめ、その筋骨を勞し、その体膚（たいふ）を餓えしめ、その身を空乏（くうぼう）にし、行いにはその為すところを仏乱（ふつらん）す。心を動かし、性を忍び、そのよくせざるところ曾益（ぞうえき）するゆえんなり」

訳）天（神々）が、その人に重大な任務や使命を与えようとするときには必ずその人を苦しめることから始めます。まずその人を精神的に追い詰め、志が折れてしまいそうな状況に陥らせる。そして、肉体的にも疲労困憊なボロボロの状態に陥らせる。そして極貧の状況にまで追い落とし、やることなすことすべて思い通りにならぬような（絶体絶命の）事態にまで

追い詰めていくものなのです。それは、天（神々）がその人の心を鍛え、忍耐力を増大させ、通常ではできないことをできるようになるまで鍛えることで大任を負わせるに足る人物に育てようとしているからです。

大きな困難に遭遇したとき、そのことを悔やむのではなく、それは自分を磨くための試練であると思えること、思うように努力することで気持ちの持ちようがガラリと変わり周囲の景色が変わります。そして気持ちが楽になり新たなアイデアや気力が自然と湧いてきます。**逆境や試練は乗り越えられる人にしか訪れません。**本日この後に「孟子」と「天」というキーワードでインターネット検索をしてみてください。関連のサイトがたくさん出てきます。今はピンとこない方のほうが多いかもしれません。しかし、この言葉を心の片隅にとどめておけばいつか必ず救われる時が来ます。

人生 100 年時代のいま、皆さんが本日迎えられた卒業・修了は、文字通りの“終わり”を示しているのではなく、皆さんにとってここから本当の「学び」が“始まる”ことを意味しています。ぜひ、皆さんも 4 月からの活動拠点を「新たな成長の場」としてしっかり認識していただき、生涯にわたり学び続けていただければと思います。

もちろん私たち教職員も、本学の同窓生として重要なステークホルダーである皆さんの更なる「学び」を引き続き支援してまいります。

卒業生、修了生の皆さん、これから社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神、そして誇り（岡大愛（LOVE））を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍してくださることを心から祈っています。そして、またいつかこの岡山大学のキャンパスに、成長した皆さんをお迎えするときに楽しみに、私からの饞（はなむけ）の言葉とさせていただきます。

そして、今年は皆さんへもう一つのメッセージがあります。それは私のパワーミュージックについてです。

突然ですが皆さんはミュージシャンの AI（アイ）さんを知っていますか？知っている人は手を上げてみてください。壇上の皆さんはいかがでしょう？ 私の同級生の 9 割は知りませんでした。「ハピネス」、「Story」、そして NHK の朝ドラ 「カムカムエヴリバディ」の主題歌「アルデバラン」で有名です。最近ではドラゴンボールダイマのエンディングテーマ

「NAKAMA」を歌っています。私は、AI（アイ）さんのオフィシャルファンクラブのメンバーであり、今年 7 月に倉敷で開催されるデビュー25 周年記念公演に観に行く予定です。

AI（アイ）さんと岡山大学とはつながりがあります。岡山大学は世界 190 か国以上から各国を代表する次世代の若いリーダーたちが一堂に会する世界最大級のサミットである、One Young World の公式パートナーとして毎年参加していますが、One Young World Japan のオフィシャルアーティストである AI（アイ）さんと私は昨年 10 月 SDG s に関する対談を行いました。その際、私は「みんながみんな英雄 2024」という曲を知りました。それ以降この曲は私を元気付ける「パワーミュージック」として毎日聞いています。その歌詞を紹介したいと思います。

やるかやめるか 右か左か

選択問題むずかしい

でも正解かどうか考えず

自分で正解に変えればいい

皆さんは今日、この日を迎えるまでを振り返ると様々な決断や選択をされてきたと思います。私も、学長として毎日選択問題を解いています。

そして皆さんも今日これからも、今まで以上に多くの決断や選択をされることと思います。来月からのみなさんそれぞれの進路について、自分の選択（それはもしかしたらやむを得ず行った選択かもしれませんが）、それが正解だったかどうかは、いつ、だれが、そしてどのような基準で判断するのでしょうか？考えてみてください。

私はちょうど 50 年前の 1975 年に第一希望をあきらめ第二希望の大学に進学をしました。それは家族や高等学校の先生の強い勧めに従っての選択でした。しかし、そのとき反対を押し切って同じ第一志望校を受けた同級生が合格したことにショックを受け、ずっとそのことが私のわだかまりとして心の片隅に残っていました。社会人になっても、予定されていた留学が急に取り止めになったり、ほぼ決まりかけていた他大学への栄転がダメになったりしたときには、心の片隅に小さくなっていたはずのこのわだかまりの炎の勢いが増すことがありました。しかし昨年、AI（アイ）さんのこの歌のこのフレーズを聞いたときには、私は 50 年前にこの歌に出会ってれば、結果は同じでもまた違う気持ちでこの 50 年間で過ごすことができたのではないかと強く感じました。正解だったかどうかは他人が他人の評価基準で決めるものではなく、自分の努力を通して自分の心が決めるもの・感じるものです。

では具体的に自分で正解に導くためにはどうしたらいいのでしょうか？ 次にそのヒントとしてこんなフレーズがあり歌の中に二回も出てきます。

踏み出せば それが道

飛び出せば そこが夢

汗かけば きっと 輝くさ

なりたかった自分が待っている

『決まった道が進むべき道』、あれこれ考えずにとにかく一步踏み出す、行動を起こすこと。そうすると徐々に進むべき道が見えてきます。止まっていたのは心の目が曇って見えません。つぎにその道を汗を流しながらそして難しい選択問題を解きながら進むと、天職と思えるもの、自分が本当にやりたいことが見えてきます。そしてまた汗をかきます。この連続により人は成長するのではないのでしょうか。私は2年前に学長という選択をしました。そのことが皆さんをはじめとするステークホルダーの方々にとって正解であったと自分でも納得できるようしっかり汗をかきます。

皆さん、一度しかない自分の人生です。しっかり汗をかいてください。  
皆さん一人一人が主役・ヒーローそして英雄です。

「みんながみんな英雄2024」この後（あと）今日の私のメッセージを思い出しながら、一人でまたは友人やご家族と一緒に聞いてみてください。是非、お願いいたします。

このたびは誠におめでとうございます。以上をもって私からの饞（はなむけ）の言葉とさせていただきます。

令和7年3月25日

国立大学法人 岡山大学長      那須 保友